

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対して「多様性社会の実現」を推進できる学校

*その実現のために、《チーム東大阪！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。

- 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現。～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～
- 2.【実践】質の高い授業実践の実現。～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～
- 3.【組織】質の高い教員集団の実現。～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～
- 4.【発信】多様性社会の推進と実現。～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

2 中期的目標

●「学校経営推進費」を受けた年度(R7)【事業名】「東大阪はなさくプロジェクト～大切な私・大切なあなた・大切な私たちのウェルビーイング～」

1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上)～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～

- (1)「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。
 - ・児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。
- (2)すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な校内体制」を構築する。
 - ・すべての児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として「報告・連絡・相談・連携」等の体制を強化する。【R6～R8 重点取組「医療的ケア・アレルギー対応の安全体制」】
 - ・個のニーズに応じた「生活指導」「健康教育」が、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。【R7～R9「生きる教育」の推進】
- (3)学校における「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめる。
 - ・危機管理関係の手引きを社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」や「業務継続計画(BCP)」等を整理・集約し、実効性を追求して改善する。
 - ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、組織として準備する。【R6～R8 重点取組「南海トラフ地震に対応できる防災」】

2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上)～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～

- (1)学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について確認し、俯瞰的視点を持って「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を達成できるように実践する。
 - ・「東大阪グランドデザイン」の作成。【R6「めざす児童生徒像」の確定→R7「めざす教職員像」の確定→R8「各学部教育目標」のつながり等の確定・「東大阪グランドデザイン」完成】
 - ・「文部科学省：第4期教育振興基本計画」「第2次大阪府教育振興計画」「府立学校に対する指示事項」「学校経営計画」「東大阪支援学校教育課程」「シラバス」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をつなげて実践する。「シラバス」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、「全体から部分」「部分から全体」を常に考えて実践し、個のニーズを実現する。
- (2)主体的な学びを大切に授業実践(観点別評価含む)を実現するため「研究授業」や「教職員間の授業見学週間」を充実する。
 - ・定期的に学年・学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。
 - ・各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築・定着する。
- (3)自立活動における専門性の向上を図るための取り組みを行う。
 - ・GIGAスクール構想に伴う1人1台のタブレットやコスモスイッチ・デジリハセンサー・視線入力装置等のICT機器を積極的に活用し、児童生徒の可能性を広げる。
 - ・スパイダー・スヌーズレン等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。また、活用の好事例を蓄積する。
- (4)すべての児童生徒の自己実現に向けて、「キャリア教育」の充実を推進する。
 - ・「キャリアプランニング・マトリックス」と「シラバス」のつながりを確認し、定期的にアップデートして、キャリア教育を推進する。
 - ・高等部卒業後の進路選択充実のため、自立と社会参加を意識した授業実践を行う。併せて「職業コース」の充実を推進する。

※上記1-(2)と2-(3)の取り組みにより、「東大阪はなさくプロジェクト」の「授業実践」における学校教育自己診断関連項目(新設)の肯定的回答率について、教職員・保護者共に、令和7年度65%以上、令和8年度70%以上、令和9年度80%以上とする。

3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上)～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～

- (1)全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。
 - ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開するため、「オンデマンド研修」を充実し、組織として専門性向上を実現する。
 - ・学年内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。
 - ・校内での学び合いに加えて、「他校からの学び」を取り入れることで、全教職員が視野を広げ、発想豊かに「工夫・提案・アップデート」できる力を高める。
- (2)組織としての「引継システム」を促進する。
 - ・定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。
 - ・授業の「年間計画」「学習指導案」「教材教具」を整理して、効率的に授業準備ができるよう活用する。
- (3)教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。
 - ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。
 - ・校務の効率化として、「校務支援システム」への移行を適切に行い、組織として働き方改革を推進する。【R6～R8 重点取組「過渡的取組から次世代校務DXへの完全移行」】
 - ・児童生徒・教職員にとって「安心安全な移乗支援実現」のため、組織としてリフト活用を推進する。【R6～R8 重点取組「リフト検証事業拠点校 安心安全な移乗支援プロジェクト」】

4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上)～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～

- (1)「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
 - ・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
 - ・地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
- (2)「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進する。
 - ・外部人材活用を積極的に行い、好事例を校内で共有すると共に校外にも発信し、地域社会・関係機関との連携を充実する。
- (3)児童生徒・教職員が東大阪支援学校の取り組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
 - ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。
 - ・児童生徒が、各種のスポーツ大会や選手権・コンクール・コンテスト等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。

※上記(1)(2)(3)の取り組みにより、「東大阪はなさくプロジェクト」の「発信」における学校教育自己診断関連項目(新設)の肯定的回答率について、教職員・保護者共に、令和7年度65%以上、令和8年度70%以上、令和9年度80%以上とする。

※上記のすべての取組を通して、児童生徒・保護者・教職員の Well-Being を実現する。【R6～R8 重点取組「児童生徒・保護者・教職員、全員の Well-Being! の実践」】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【実施期間】 令和7年11月26日(水)～12月8日(月)</p> <p>【対象】 保護者(提出率:79%)・児童生徒(提出者:77名)・教職員(提出率:100%)</p> <p>(1)【基礎】安全安心力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への関連設問項目「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」「学校は、安全であり、子どもは安心して学校生活を送れている」「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権に配慮した言葉や態度で接している。」「防犯・防災について備え、訓練や準備を進めている」等について、91%～94%の肯定的評価があり、児童生徒及び保護者の安心安全のニーズに学校として応えられている結果であった。 	<p>【第1回学校運営協議会:令和7年7月16日(水)実施】</p> <p>《委員より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営推進事業の支援校に選出され、取り組まれる内容を聞き、大変期待している。素晴らしい取組となるように、3年間頑張ってもらいたい。 ・「他校からの学び企画」で、教職員全員が他校へ学校見学に行くとのこと、約100名の出張旅費は、どのような予算を活用するのか教えていただきたい。 →今年度の学校経営計画のポイントとなる取組であることから「校長マネジメント経費」の旅費として約9万円の予算を計上している。(実際には約7万円の旅費支出で実現) ・東大阪支援学校は、新しいことに挑戦し続けている姿勢がすごいと感銘している。日々の業務で疲弊し、新しいことに挑戦したいと思いつつもできない組織が多い中で、いつも

府立東大阪支援学校

- ・教員への関連設問項目「児童生徒に使用する『言葉・行動』と同僚間で使用する『言葉・行動』の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」「ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告が共有され、再発防止に活かされている」「教員・養護教諭・看護師・栄養教諭等が協働し、児童生徒のケガや体調の変化を共有しながら、健康を守る連携ができています。」については、88%～98%の肯定的評価であった。
- ・いじめ等が起こった場合の対応や予防については、R5 で保護者の25%が「わからない」と回答したため、周知説明を行った結果、R6 は保護者の肯定的評価が 74% (R5)から 81%(R6)へ改善した。しかし、R7 では肯定的評価 74%で「わからない」が 25%と戻ったため、再度、保護者へ周知説明を行う必要がある。

(2)【実践】授業実践力の向上

- ・保護者への関連設問項目「子どもにとって、授業はわかりやすく、楽しく学べるものになっている」「学校は、子どもに自分自身やまわりの人を大切にし、社会のルールを守る態度を育てようとしている」「進路選択の情報提供と併せてキャリア教育の視点でも取り組んでいる」について、90%～94%の肯定的評価で3%～6%上昇した。
- ・教員への関連設問項目「児童生徒の主体的な学びを大切にし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を行っている」「キャリア教育の視点(挨拶・友だちと協力する・係活動で役割を果たす・自己肯定感を高める等)も併せて、取り組んでいる」について、92%～94%の肯定的評価であった。しかし、「他学部授業見学週間等を実施し、他の教員と意見交換することで、授業改善・授業力向上に活かすことができています」については、76%の肯定的評価で R6 の 88%から 6%下がったため、授業改善の方法に工夫が必要。「学校行事が、児童生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」については、行事の形態移行に伴い、肯定的評価が 73%で R6 の 89%から 16%下がったが、社会の変化に伴いより充実した新しい取組へアップデートできるよう検討を重ねていく。
- ・「ICT 機器等の活用」については、保護者の肯定的評価が R6 の 54%から 10%増えて R7 は 65%となった。まだ、「わからない」と回答している保護者が 3 割いるため、引き続き、積極的に ICT 機器を活用している授業実践の様子を保護者へ発信していく必要がある。
- ・「東大阪はなさくプロジェクト」の授業実践は、11 月の内覧会以降の実践となったため、保護者の肯定回答が 65%・教職員の肯定回答が 96%と差が出た。

(3)【組織】組織力の向上

- ・保護者への関連設問項目「学校は、教育情報について、提供の努力をしている(連絡帳・マチコメール・懇談等)」「教職員間で子どものことについて情報共有等、十分な連携がとれている」「教職員は、子どもの障がいについてよく理解している」について、88%～98%の肯定的評価で 4%～6%上昇した。「個人情報の適切な取り扱い」については、肯定的評価 97%で R6 の 81%から 16%上昇した。
- ・教員への関連設問項目「全校研修会を適宜実施し、教職員の専門性向上に努めている」「校長の学校経営項目」について、93%～97%の肯定的評価であった。
- ・また、「仕事が効率的に実施でき、引継もスムーズに行えるように、定期的な整理整頓や校務のスリム化を進めている」は、肯定回答が、R5 の 67%→R6 の 80%→R7 の 84%と良好な変化となった。「①仕事の時間を区切る②仕事のスリム化を行う③仕事の仕方を変えるために工夫・改善に取り組んでいる」も、R5 の 72%→R6 の 74%→R7 の 84%と 10%増の良好な変化となった。
- ・昨年度、課題解決として取組みの必要性を示した「児童生徒への対応や仕事上の課題について、気軽に相談しあえるような職場の雰囲気がある」については、肯定回答 82%で R6 の 76%から 6%改善できた。「教職員の意見の反映」の肯定回答 56% [R5 は 42%・R6 は 56%]については、課題解決に向けた検討と取組みを継続。

(4)【発信】発信力の向上

- ・保護者への関連設問項目「学校は、学校間交流等の取り組みにより、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「ホームページの学校ブログ等で学校の取り組みを知ることができる。」について、77%～80%の肯定的評価で、7%～11%上昇した。
- ・教員への関連設問項目「学校は、教育活動に必要な情報について、ホームページの学校ブログや配付物等を用いて、保護者や地域への情報発信に努めている」「外部人材活用による取組を行い、地域に開かれた学校作りに取り組むことができています」について、91%～95%の肯定的評価であった。
- ・「東大阪はなさくプロジェクト」の授業実践は、11 月の内覧会からの発信となったため、保護者の肯定回答が 64%・教職員の肯定回答が 95%と差が出た。R8 は実践を積み重ねて積極的に意義や成果を保護者や地域関係者へ発信していく。

- * 児童生徒の結果については、どの項目も概ね良好な結果が得られた。個別に対応が必要と思われる項目結果については、ていねいに指導・支援を継続する。
- * その他、「学校の施設設備面」の設問項目では、保護者・教員共に「校舎の老朽化」「トイレの環境改善・改修工事」についての必要性が、「記述回答」で多くみられた。
- * 今後、以上の「学校教育自己診断アンケート」の結果を踏まえて、全教職員で分析・検討を行い、次年度の学校経営計画へ活かしていく。

【分析・検討状況】(3月職員会議でまとめ)

1. 教員結果で、肯定的な回答の数値を引き上げたい項目について、以下の内容を重点に分析・検討する。
 - 分掌・委員会に関連する項目は、各部署で検討し、次年度の方針を決める。
 - 以下の内容については、学部会・学年会等で課題改善に向けて意見を出し合う。
- (1)「授業実践力の向上」の根幹となる項目→「質の高い授業実践」の項目
 - 【項目 11】「他学部授業見学週間等を実施し、他の教員と意見交換することで、授業改善・授業力向上に活かすことができています」
 - 【項目 13】「ICT 機器等を積極的に活用し、児童生徒のニーズに応じた授業を行っている」
 - 【項目 27】「個別の指導計画や個別の教育支援計画について、教職員の共通理解を図り、活用している」

2. 来年度に向けて

- (1)「授業実践力の向上」の根幹となる項目→「質の高い授業実践」の項目
 - ①授業見学の充実と授業公開
 - ・「他学部授業見学週間」に加えて、学部内調整が可能なタイミングを活用して校内の授業観察を積極的に行い、自身の授業改善につなげる。
 - ・「はなさくオープンスクール」として 11 月 4 日～6 日の 3 日間(1 限～6 限全日)、本校の授業を地域小中学校・府立支援学校・地域事業所・医療関係者等へ公開。センターの機能を発揮すると同時に他機関からの意見や感想を自身の授業改善に活かす。
 - ②教材教具の共有
 - ・指導略案や教材データは東大阪支援ストレージ内で整理・保管し、シラバスと共に全教職員が閲覧・活用可能な状態にする。
 - ・タブレット端末にあるプレゼンテーションソフト等の教材データをオンラインストレージ内で保管・共有。
 - ③授業実践力の向上のための話し合い・研究協議
 - ・全校的な教科会の実施や、学部内での授業に関する話し合いの充実。
 - ・全教職員でのイノベーションミーティングの実施。(各学部の教育目標とつながり)

- すごいおと感じている。先日行った研修の中で「イノベーションマインド(新しいことに挑戦する気持ち)に必要なことは何か」という話で二つあると学んだ。一つは「仕事の中でワクワクすること」、二つ目は「不安がないということ」。自分も職員にそのような気持ちになってほしいと思っている。東大阪支援学校は、学校運営協議会に参加するたびに新しい取組ができていくが、この新しいことに挑戦する職場のメカニズムを知りたい。
- 昨年度、教職員全員で「どんな学校を作っていきたいか、夢を語り合おう」というイノベーションミーティングを行った。全員が付箋に思いを書いて語り合い、可視化した。その内容のいくつかを実現するためには「予算」が必要で、大阪府の「学校経営推進事業」の選考にトライした。先生方の思いを形にするためのジョイント役として部主事・首席が自ら考えて動き、教職員も試行・協力しながら「子どもにとって」という視点で進んでいる。
- ・「東大阪はなさくプロジェクト」の内容は、「デジリハ」や「がっこうヨガ」等、最新の取組も含まれており、かなり専門的なスキルが必要だと思うが、何か工夫はあるか。
- コアメンバーを募集して、「みんなで学んでいながら実践すること」に加えて、各分野の専門家と連携して指導助言をいただくシステム。教員研修や出前授業を行い、また、大学・企業からの伴走支援も活用する予定。
- ・「東大阪はなさくプロジェクト」の内容は、自立活動と関連しているもので、ぜひ、自立活動の 6 区分のどのねらいで取り組むのか、位置付けながら進んでほしい。スヌーズレン・デジリハ等、子どもによってねらいが違うと思うので、身体の動き・コミュニケーション能力・認知面向上等、意識しながら、子どものモチベーションアップにもつなげてほしい。
- ・聞いていてワクワクする取組である。「組織力の向上」として教職員の異動があっても組織力が維持できる視点は、地域小中学校も同様である。地域小中学校でも人材育成の観点で異動期間が 4 年～7 年程度となっている。人材育成は喫緊の課題で、自校でも教員一人ひとりが「自分の実践が学校のめざす子ども像にどうつながっているのか」意識できることが大切だと感じている。東大阪支援学校のイノベーションミーティングを参考に自校でも今年度から取り組んでいる。ぜひ、ミドルリーダー間の連携をお願いしたい。
- ・「ポジティブ行動支援」の研修を教員が受けているのか。
- 外部研修で受講する機会が増えており、生活課程で共有することはある。
- ・地域で活動する中で、訪問介護や愛着障がいの方と関わる機会もあり、「生きる教育」を学んでいきたいと考えている。地域に還元できる情報として、「生きる教育」から学んだことを提供していきたいと思う。
- ・21 年間「学校」を外部の立場で見えてきたが、今回の「東大阪はなさくプロジェクト」の企画を聞き、「学校」が「このような取組を行ってほしいな。このような環境を導入してほしいな」と思っていた形が実現しており、大変うれしい。子どもたちにとって、良い形になっていると思ひ、期待している。組織としての取り組みを進めて、地域や全国に発信してほしい。
- ・保護者の立場で、新しいプロジェクトが始まって、先生方も一生懸命取り組んでいて、自慢のできるいい学校だと思っている。ぜひ、東大阪支援学校が地域を率先していく形で、地域の支援が必要な子どもたちも活用できるようになってほしい。地域へ貢献できたら、東大阪支援学校がもう一歩グレードアップできると思っており、楽しみにしている。一方で保護者として気にしているところは、2学期の大きな行事がなくなって、プロジェクトは将来的にもすぐ良いことではあるが、子どもたちにとっては毎年毎年が「限られた1年」でもあるので、フォローをどうしようかと悩んでいる部分もある。
- 行事の移行期に伴う補足説明を行い、「子どもにとって」を軸に、より充実した新しい取組へアップデートできるよう検討を重ねていく。

【第 2 回学校運営協議会:令和 7 年 12 月 10 日(水)実施】

- 《委員より》
- ・「デジリハ」の実践動画を見て、よくわかった。肢体不自由部門だけではなく、生活課程の生徒も活用できる。「視線入力」の機器も使用できるとのことなので、これも肢体不自由部門の子どもだけでなく、生活課程の生徒も活用できる。生徒の見え方を分析する等、多様な使用方法があるので、有効に活用してほしい。
 - ・学校が改修工事できれいになったり、新しいプロジェクトで機器を導入したり、他の学校に見学に行くと学べたりと色々得るものが多い取組ができています。教員数が増えている状況ではなく、働き方改革で勤務時間が短くなっている中で、どのようにして「新しい挑戦」ができていくのか。
 - 環境面で諦めている雰囲気があったが、R5・R6 と工夫をしながら昭和 51 年創立当時のロッカー等を入れ替え、教室の手洗い等を改修したことで、教職員の意識が変わった部分がある。安全衛生委員会の教職員自ら「ビューティー計画」や「ビューティー週間」を企画して、全教職員自らが率先して校内を整理整頓できたことは自慢できるできごと。環境面で空間ができることは、頭の中にも余白ができ、「工夫・提案・アップデートする力」につながっていると考えている。
 - ・授業アンケートで小学部の提出率が低いのは何か理由があるのか。
 - 全体として、ご両親とも働かれている家庭が増えている。2 学期の土曜参観では保護者の来校・参観者が増えた。
 - ・保護者の中には、授業に加えて、学校生活全般の子どもへのケアや関わり方を気にされている方もおられると思うので、参観だけでなく日々の関りもフィードバックを継続してほしい。
 - ・子どもの環境を整えることで自分たちの教育活動が広がるという前向きな視点は大切だと感じた。自校でも教員の前向きな視点を大切に、リーダーシップを発揮してもらっている。
 - ・保護者の中には、授業アンケートは記名式で出しにくいという声を聞いたことがある。また、意見がある保護者は、見学した時に授業アンケートに〇を記入するよりも担任と直接コミュニケーションをとっている方も多いと思う。
 - ・第 2 次大阪府教育進行基本計画前期事業計画に基づく意識調査について、府がめざす目標がわかりやすく示されていると感じた。東大阪支援独自のキャラクターが表記されており、わかりやすい。大阪府のめざす子ども像と日々の教育実践をいかに結び付けているのか、具体的な授業の工夫なども今後教えていただければありがたい。
 - ・イノベーションミーティングについて、グループワークによる職員研修だが、教員の興味をうまくひくように作られていると感じた。ワールドカフェ方式での実施も、たくさんの人と話さずことができ、教職員の皆さんのエンパワメントにつながるのではと思った。

【第 3 回学校運営協議会:令和 8 年 2 月 18 日(水)実施】

- 《委員より》
- ・授業アンケートの結果分析として、貴校のように多数が A/B の肯定的意見の場合、A の「そう思う」と B の「だいたいそう思う」の比率を前年度と比較して、A の増加率に注目して評価してみてもよいと思う。
 - ・学校教育自己診断アンケートの保護者結果の ICT 活用関連項目の「わからない」が 3 割あることについては、現状活用ができているので、保護者への広報活動を積極的に進めようと思う。
 - ・がっこうヨガの動画を見せていただき、「はなさく通信」で読んで内容は知っていたが、実際に小学部・中学部・高等部の児童生徒の授業の様子を見ることができてとても良かった。
 - ・1 月 17 日の学校開放「遊防祭」では、1000 名の参加があり、趣旨が地域に届いていると感じた。東大阪支援の防災の取組やはなさくプロジェクトの紹介もあり、大変有意義な学校開放だった。来年度もぜひ、継続を期待している。
 - ・PTA としても今回「遊防祭」にブースを出して参加した。当日参加できない方にも事前に展示のお手伝いに動いていただいた。参加した保護者は「楽しかった」「学校でこんなことができることはとてもすてき」「勉強にもなった」との意見が出た。
 - ・がっこうヨガの取組は期待できると思う。スパイダーと併用してみてもおもしろいのではと感じた。→様々なものを掛け合わせて、子どもの可能性を広げたい。
 - ・アクティブファッションショーの取組を写真で見ても、大変感銘を受けた。ぜひ、継続して発信してほしい。
 - ・貴校の取組にいつも刺激を受けている。自園でも職員にやりたいことを考えてもらって、実践していけたらと思う。
 - ・教員も管理職も子どもたちのために楽しんで企画・実践している様子がすてきだと思う。東大阪支援の取組をぜひもっと発信していただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6 年度値]	自己評価
1 安全安心力の向上【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) 教職員の人権研修として、「ファシリテーションスキル」「アサーティブコミュニケーション」「アンガーマネジメント」等、健全な同僚性構築に必要な様々なコミュニケーションスキルを3年計画で学ぶ。 ・児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。	(1) 全校研修1回で外部講師招聘。振り返りシートを2回実施。 ・学年会等を活用して、「ことば・行動」を振り返り、課題ケースは即時対応。好事例を活用。	(1) ⇒ (1) 人権尊重スキルとしてのアサーティブコミュニケーションを学ぶとの内容で7月に外部講師を招聘し「人権研修」を実施済。全教職員が少人数でのグループワークで学び直し、「アサーティブコミュニケーション」の重要性を再認識した。振り返り2回済。「ことば・行動」について、学年会、学部会で「自分事」として振り返り、気づきや好事例を共有。実践に活かしている。
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) 高度な医療的ケアを安全に実施するために定期的な緊急対応シミュレーションの実施。(基礎バリエーションの定着) ・改定した「アレルギー対応マニュアル」に基づき、今年度の保健関係の安全体制を再構築。 ・「生命(いのち)の安全教育」を包括する「生きる教育」の学習指導案を作成し、関連授業を実施することで、児童生徒のウェルビーイングを向上する。	(2) シミュレーションの基礎バリエーションを各学部学期1回以上実施。 ・「アレルギー全校研修」1回。 ・「生きる教育」の学習指導案を5本作成。 ・「生きる教育関連授業」5回実施。校内研修1回実施。	(2) ⇒ (2) 緊急対応シミュレーションを各学部共通テーマで「校外・誤嚥・アレルギー」の基礎バリエーションを年間16回実施済。 ・8月に外部講師を招聘し「アレルギー研修(エビを含む)」を実施済。 ・「生きる教育」の学習指導案は、「がっこうヨガ」で9本・「子どもの権利」で3本合計12本作成済。 ・「生きる教育関連授業」は、「がっこうヨガ出前授業」を9月・10月・1月に9回実施。校内で「人との距離感・プライベートゾーン・2次性徴」「子どもの権利条約」「SNS」授業も14回実施。関連授業合計23回実施。「がっこうヨガ校内研修」1回実施済。
	(3) 危機管理体制の強化	(3) 「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「学校防災アドバイザー」等を活用し、組織として準備する。 ① 南海トラフ地震を想定した避難訓練・防災学習を実施。 ② 防災備蓄品・防災備蓄食等の整備と充実。 ③ 保護者と連携した災害時引き渡し模擬回答訓練の実施。 ④ 福祉避難所マニュアルの概要版作成。	(3) 南海トラフ地震を想定した避難訓練・防災学習を1回実施。 ・備蓄食・災害用トイレの整備。 ・災害時引き渡し模擬回答訓練1回。(回答率R6:42%→R7:70%以上) ・福祉避難所マニュアル概要版を東大阪市と協働作成。(年度内)	(3) ⇒ (3) 南海トラフ地震を想定した避難訓練・防災学習を10月実施。東大阪市と連携し、ベッドや災害用トイレ等の見学・体験ができた。 ・備蓄食の消費期限をグラフで可視化。備蓄食の教職員試作会6回実施。 ・災害時引き渡し模擬回答訓練を11月実施。回答率は81%。(R6より+39%) ・学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、東大阪市・八尾市・大東市担当課と合同会議を4回実施。方向性として現在の「福祉避難所」から新たに「指定福祉避難所」の協定書締結を優先。2月協定書案完成。R8年4月末協定締結予定。
2 授業実践力の向上【質の高い授業実践の実現】	(1) 教育課程の充実 個のニーズの実現	(1) 「東大阪支援グランドデザイン」を3年間で完成する。R7は、社会の変化に合わせた「めざす教職員像」についてグループワーク形式で発散・収束し、アップデートする。 ・授業の目標と観点別評価の基礎を学び直し、授業事例を通した応用を確認。エビデンスに基づいた実践を積み上げる。	(1) 「東大阪支援グランドデザイン」の「めざす教職員像」完成。(年度内) ・外部講師による「個別の指導計画・観点別評価・シラバス」研修1回	(1) ⇒ (1) 「東大阪支援グランドデザイン」の「めざす教職員像」のグループワークを12月に実施済。18グループの内容を共有。「いいねの輝き」企画でコメントを集約。3学期「めざす教職員像」完成。「個別の指導計画・観点別評価・シラバス」全校研修実施済。シラバス作成の意義や教育課程上の位置づけについて改めて学び、活用方法や授業検討(PDCAサイクル)についての流れを意識した授業作りの再確認ができた。
	(2) 質の高い授業実践	(2) 他学部への「授業見学週間」を実施し、学びを「明日からの授業」に活用する。 ・10年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、ミドルリーダーとしての授業改善を進める。	(2) 「授業見学週間」を2回実施。 ・「公開研究授業」3回実施。	(2) ⇒ (2) 他学部への授業見学として「どこでも授業見学」を11月・1月に2回実施済。各学部、見学強化週間を設け、見学希望を募り、授業見学に参加後、感想等を担当教員へ渡す取り組みを実施。教材の工夫等、多くの学びにつながった。 ・10年経験者研修を活用した「公開研究授業」を4回実施済。外部参加者の意見も聞くことができ、授業改善が促進。
	(3) 自立活動・ICTの充実	(3) 児童生徒1人1台端末の活用促進に向けて「児童生徒が授業でタブレット端末を活用した好事例」を共有・発信。 ・ICT機器「COSMO」やスパイダーの活用例(好事例)を蓄積し、校内で活用する。 ・「スヌーズレン」や「デジリハ」を導入し、活用を開始する。	(3) タブレット活用実践を4事例校内で共有。 ・COSMO活用例校内共有。 ・「東大阪はなさくプロジェクト」授業実践で学校教育自己診断の関連項目 教職員・保護者共育的評価65%以上。	(3) ⇒ (3) タブレット等活用実践4事例以上を資料にまとめて各学部で共有済。 ・ICT機器「COSMO」や「ピエソスイッチ」の活用例を職員会議や学習会で共有済。自立活動だけでなく、教科学習での利用も促進し、活用の幅が広がった。 ・「東大阪はなさくプロジェクト」として、「デジリハルーム」「スヌーズレンルーム」「はなさくスタジオ」等が完成。11月から授業で活用開始済。自己診断関連項目 保護者65%・教職員96%。
	(4) キャリア教育の充実	(4) キャリア教育充実及び高等部「職業コース」や進路学習等の充実のため、以下の授業を実施する。 ① 石切剣箭神社の清掃を継続実施。 ② 企業見学・体験学習の継続実施。 ③ 外部講師による授業連携の実施。(福祉サービス事業所や企業からの出前授業等)	(4) 石切剣箭神社の清掃(高等部生活課程3学年が実施) ・実習先の職場新規開発。 ・外部講師による授業連携・出前授業を年間4回実施。	(4) ⇒ (4) ①石切剣箭神社清掃を計5回実施。主に職業コース生を中心に、進路学習として生活課程1年生も実施。 ・②15社の企業で体験実習を実施。内11社が新規開拓事業所。6社が就職予定企業。企業見学は3学期に実施済。 ・③外部講師による出前授業を5社の企業・1事業所から年間7回実施済。生徒の多様な学びにつながった。
3 組織力の向上【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) 教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開するため、「東大阪研修ライブラリ」システムを構築する。 ・全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。 ・校内での学び合いに加えて、「他校からの学び」を取り入れることで、全教職員が視野を広げ、発想豊かに「工夫・提案・アップデート」できる力を高める。	(1) 「東大阪研修ライブラリ」に新規オンデマンド研修4本追加。 ・全教職員が他校の授業見学や特色ある取組を学ぶために一人1回の学校訪問を実施。関連するイノベーションミーティングを1回実施。	(1) ⇒ (1) 「東大阪研修ライブラリ」システム構築に向け、全体研修は録画をして、再学習できるようにしている。また、「がっこうヨガ研修」「スヌーズレン研修」「きょうだい支援学習会」等もオンデマンド研修としてデータ録画5本追加済。 ・「個別の指導計画・観点別評価・シラバス」全校研修実施済。 ・「他校からの学び」企画では全教職員が他校見学を実現。合計35校(府立支援27校・高等学校1校・小学校2校・義務教育学校1校・他府県4校)から多くの気づきと学びを得て、自校に活かすことができた。関連会議も1回実施済。
	(2) 引継システムの推進	(2) 定期的な「整理整頓」を行い、校務のスリム化を促進する。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)+S(支援)の実行。 ・教材教具のデータベース化を推進し、効率的な授業準備や引継等に有効活用する。	(2) 校内ビューティー計画実行(年2回) ・各学部の教材教具データを学校として集約・活用(1月まで)	(2) ⇒ (2) 7月、全教職員で「校内ビューティー週間」を実行。学部・分掌・教科のカテゴリーで各教室・職員室等の不要物品約40リュウベを廃棄。劇的な整理整頓により環境改善が進んだ。 ・各学部の指導案・教材教具データ等をフォルダ内に集約し、活用できるよう整理した。
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) 教職員が心身ともによい状態(Well-being)で児童生徒に向き合い指導・支援するために次の3点を意識して「働きやすい職場環境作り」を促進する。 ①「仕事の時間を区切る」(毎週水曜日全教職員定時退勤) ②「仕事のスリム化を行う」(ICTを活用した校務の効率化) ③「仕事の仕方を変える」(発想の転換・業務連携) ・校務の効率化として、「校務支援システム」への移行を各分掌長がけん引し、R8完全移行を実現する。会議システムの改善等、組織として働き方改革を推進する。 ・「子どもにとって・教職員にとって安心安全な移乗支援」として「リフト」を活用し、成果を検証する。(2年目)	(3) 毎週水曜日全教職員定時退勤の実行。緊急対応以外100%。 ・「校務支援システム」への移行と運用確認会議を月1回実施。 ・「会議システム」改善の好事例を共有・活用。(2回発信) ・腰痛予防検診2回実施。 ・リフト導入における外部講師の研修と巡回指導(年3回)	(3) ⇒ (3) 平日の19時機械警備・毎週水曜日17時30分職員室施錠は、緊急対応案件以外は、100%実施。 ・「校務支援システム」移行への運用確認会議月1回実施。 ・学籍情報・出席簿・指導要録・個別の指導計画は教務部を中心に整備。個別の教育支援計画は在校生の入力完了。 ・運営委員会の場を議事調整に加えて「校務支援システム進捗共有」「危機管理進捗共有」の場として活用できた。 ・腰痛予防検診を専門機関と協働して、8月に実施。2月に検診結果を踏まえた助言を書面開催。 ・「安心安全な移乗支援」として「リフト」を5台活用。「腰痛予防対策費(ノーリフティング・介護リフト検証事業)」の拠点校3校で情報共有研修を実施済。業者・講師の巡回3回実施済。
4 発信力の向上【多様性社会の推進と実現】	(1) センターの機能の発揮	(1) 「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。 ・地域の教育委員会・学校園と連携し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。 ・地域支援整備事業の中河内ブロック推進校1年目として、支援体制の推進。中河内ブロックとして取り組むテーマを決め、ブロック会議や研修会等を企画・運営する。	(1) 交流及び共同学習の業務を組織として分掌へ位置づけ移行。 ・地域の学校園の教員へ本校の研修会を公開する。(年2回) ・中河内ブロックでの研修会を年2回・相談会年1回実施。	(1) ⇒ (1) 学校間交流は、「小学部:石切小学校」「中学部:石切中学校」「高等部:高津高等学校」と実施。ダンスや演奏の発表をお互いに行い、学びを深めた。教員間の学び合いも実施。 ・センター的機能として、本校の全校研修会も2回公開実施。地域小中学校への巡回相談・助言を年間通して実施。 ・中河内ブロック推進校としては、ブロック会議年3回・ブロック研修会年2回・夏期来校相談会・L1勉強会年2回を実施。ブロック研修会は各回200名超の参加でアンケート高評価。
	(2) 地域に開かれた学校作り	(2) 外部人材活用による活動内容の充実に向け、「外部人材活用等」で地域とつながった取組みの一覧表を更新。 ・地域の専門性のある人材を「出前授業」講師をして積極的に活用する。	(2) 「外部人材活用等」の取組み一覧表の作成・年1回更新。 ・地域の方等による「出前授業」を3回実施。	(2) ⇒ (2) 各学部・分掌が活用した外部人材を集約し一覧表を作成・更新済。 ・「出前授業」は、読み聞かせ・アート(ネイルイット作り)・栄養士による講義実習(バター作り)等6回実施済。
	(3) 実践の積極的発信	(3) 教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。 ・児童生徒が「スポーツ大会」や各種選手権・コンクール・コンテスト等の機会を活用し、積極的に挑戦できるように組織として支援する。 ・「東大阪はなさく通信」を5回発行する。	(3) 研究会等校内外で実践発信。学校(個人・グループ)から校内外へ実践発表等を4実践。 ・児童生徒の大会等参加支援。(年5回) ・「東大阪はなさくプロジェクト」の発信における学校教育自己診断の関連項目 教職員・保護者共育的評価65%以上。	(3) ⇒ (3) 研究会等校内外で実践発信。学校(個人・グループ)から校内外へ実践発表等を4実践。 ・児童生徒の大会等参加は「支援学校スポーツ大会(夏季・冬季)」「スポーツフェスタ」「大阪府高等学校書道展」等5回済。 ・「東大阪はなさくプロジェクト」の発信として「東大阪はなさく通信」を5回発行済。自己診断関連項目 保護者64%・教職員95%。